

令和4年度 学校運営協議会（第2回）議事録

- 1 日 時 令和4年11月25日（金） 14:15～15:40
- 2 場 所 本校 会議室
- 3 参加者 協議会委員：地域住民、学識経験者等4名
本校教職員：校長、教頭、事務長、首席、教務部主任、生徒指導主事、
保健主事

4 内 容

- (1) 委員長挨拶
- (2) 校長挨拶
- (3) 第1回議事内容確認
 - ・前回出た質問への回答
近くに大型商業施設がオープンするが、生活指導においてどのような対策を取っていくのか。
⇒オープンした次の週に、毎年行っている下校指導の際に、挨拶も兼ねて教員が来訪した。
生徒には、利用するのは構わないが、きちんとマナーを守るようにと指導している。
- (4) 授業見学
- (5) 議 事

◆府立大塚高校への機能統合について

- ・11月8日の教育委員会会議で決定し公表された。
生徒、保護者、PTA、同窓会、後援会等には、8月末に連絡させていただいた。
- ・平野高校、かわち野高校、美原高校の3校が閉校になり、その一部の機能がそれぞれ松原高校、枚岡樟風高校、大塚高校に統合される。
- ・美原高校がやってきた様々な取組みを大塚高校に提示し、それを大塚高校で今後取り入れていく。
- ・この地域の子どもの数がどんどん減っていることもあって、再編整備の対象となった。
- ・志願状況、地域性、学校の特色等を勘案して、大塚高校への機能統合が決定された。
- ・今後の課題は、美原高校で行っている少人数でのていねいな授業で基礎学力を引き上げる取組み、配慮が必要な生徒への手厚い支援などを大塚高校で継承していくこと。
- ・令和5年度は4クラス160名を募集し、令和6年度から募集を停止する。来年の入学生が最後の学年となり、3年後に閉校になる。
- ・その間の課題は、これまで同様子どもたち一人ひとりに力をつけさせることに加えて、生徒数が減る中で、行事・部活動等、最後まで高校生活を満喫できるようにすること。
- ・閉校に向けて、PTA、同窓会などをどのようにしていくかということも大きな課題。これについては、PTAの役員・実行委員、同窓会の役員の方々と話をしながら進めていきたい。
- ・大塚高校には体育科と普通科があるが、美原高校の体育専門コースでの取組みを普通科の方で継承

していく。

- ・また、美原高校がここ4～5年で充実させてきた生徒の支援体制を大塚高校で引き継いでいく。
- ・何より最大の課題は、これまで通り、美原高校を選んで入学してきた子どもたちに、基礎的な学力やコミュニケーション力など、いろいろな力をしっかりとつけさせること、

□協議委員からの質問

- ・大塚高校は体育科、美原高校は体育コースだが、継承はうまくいくのか。
⇒体育科は、入学時から別の試験で入ってくる。自分の専門の競技で実技テストを受けている。
大塚の普通科の方で、美原でやっているような体育の専門科目を選べるようにすれば、体育科に進学するほどではないけど運動もしたいという生徒や、体育科を続けられなくなった生徒の受け皿にできる。
- ・来年度入学する今の中学3年生は、年々学年が減って行って、高校3年の時には1学年のみとなり、縦割りの活動を通した他学年との交流が経験できなくなる。閉校までの3年間の中で、生徒が大塚高校の生徒と交流することはあるのか。
⇒そうした交流はほとんどない。授業や行事での交流はできないと思われる。これまでの統廃合の例を見ても、カリキュラムの違いや学校間の距離の問題もあり、難しい。部活動に関しては、今後、大阪府全体として、隣接する2校が合同で行うようにするという動きがある。

◆令和4年度学校教育自己診断について

- ・質問項目は例年と変えていない。
- ・今年度は、生徒と教員については、端末からの入力による回答とした。保護者については、これまで同様紙に記入してもらう方式。
- ・生徒には、2学期の中間テストの最終日に一斉に入力させ、長欠の生徒を除くほぼすべての生徒が回答した。保護者の回収率も例年並み。教職員については、紙でやっていたときは100パーセントの回収率だったが、端末入力だとだれが回答したのか分からないため、まだ回答していない教員に個別に声をかけることができず、回収率が下がってしまった。次年度以降、回収方法を検討したい。
- ・細かな考察については、第3回の学校運営協議会で報告させていただく。
- ・おおまかな傾向として、生徒については、昨年度と比較して肯定的な回答が増えている。特に大きく上がっている項目は、「先生はプロジェクターや生徒1人1台端末を活用するなど、教え方を工夫している」と「今のクラスに友達がいる」。唯一下がっている項目は、「部活動は盛んである」。人数が減って維持できないクラブが増えているという現状が生徒にも伝わっている。
- ・保護者については、生徒とは対照的に、下がっている項目が多い。特に大きく下がっているのは、生徒と同じく「部活動は盛んである」の項目であるが、生徒では上がっているのに保護者では下がっている項目が多く見られる。生徒が家で学校の様子を話すときによくないことを言っているのか、保護者にはいいように伝わっていない。
- ・教職員については、大きく上がっているのは、「教育課程の編成に当たって、学習指導要領の趣旨が生かされている」や「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」など、授業に関わる項目。下がっている項目で気になるのは、「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善

を行っている」。生徒会部がなくなって、体育大会と文化祭を実行委員会形式にしたことが原因かもしれない。

□協議委員からの意見・質問

- ・生徒の回答と保護者の回答に乖離が見られる。この学校の生徒が、家庭で保護者と対話をしているのかということが気になる。そういう質問項目を入れられないだろうか。あまり話をしていないのであれば、保護者の意見は子どもの意見を反映したものではない。
- ・令和1年のアンケート結果は、新型コロナウイルスが流行する前のもので、令和2年からコロナの影響が出ているはず。そこに差があるのかということも考察してほしい。
- ・教職員のアンケートの「各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」という項目が、今年度急激に上がっているが、今年度から会議の形態を変えたというような理由があるのか。
⇒教職員の人数が減っていることが影響しているのかもしれない。どの会議も人数が減って、より密になり意見を出しやすくなっている。会議の方法を変えているということはない。

◆令和4年度授業アンケートについて

- ・今年度は、1回目を5月27日、2回目を10月18日（2年）、21日（1・3年）に実施。
- ・座学の授業と実技の授業で質問の文言を変えている。
- ・第1回目は、全項目において肯定的な回答が多く、非常に高い数値（平均3.60）であった。
- ・第2回目は、第1回目より下がっている（平均3.49）。
- ・1回目と2回目の平均では、3年生は去年より上がり、1・2年生は去年より下がっている。3学年トータルでは、去年より上がっている項目が6つ、去年と同じ数値の項目が3つ。
- ・特に数値が高いのが観点2（授業に対する生徒の取組）の質問（3.72）、その次に高いのが観点3（生徒理解）に関する質問（3.68）。多くの生徒は、授業にまじめに取り組んでいると自己評価しており、授業のペースや難易度は自分に合っていると考えていると言える。
- ・注目して見ているのは観点5（教材活用）の質問。この項目の数値（3.55）が年々上昇しているのは、授業におけるプロジェクターや端末の使用が定着してきたためであると考えられる。
- ・相対的に数値が低いのは、「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている」の項目8（3.35）と、「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の項目9（3.39）。年度別に見ると、徐々に上昇してはいるが、生徒の興味・関心を引く授業をするという点については、今後も改善をしていく必要がある。
- ・教科別に見ても、決して低い数値ではないものの、1回目よりも2回目の方が低くなっている。その理由も含めて、現在各教科で分析とその対策について検討しているので、その概要を第3回学校運営協議会で報告させていただく。

◆令和5年度使用教科書選定について

- ・選定の観点、経過、選定理由等は資料のとおり。
- ・今年度より、1年生は新学習指導要領で新しい科目も入ってきているが、混乱なく授業を行えている。今年の1年生の様子も踏まえて、来年度の教科書を選定している。

□協議委員からの質問

- ・今年から「歴史総合」という科目が入ったが、生徒や教員から何か声が上がっているか。
どんな授業をしているのか興味がある。
⇒近現代を扱っていた「日本史A」の内容に、世界史の近現代の内容がプラスされており、教員としては対応できている。生徒がどれだけ関心をもつのかについては難しい面があると聞いている。世界史を勉強する機会が「歴史総合」のみとなっている。生徒が不満を言っているということはない。

◆生徒の支援（SC、SSWの活用等）について

- ・近年、支援の必要な生徒が増えている。
- ・美原高校では、月曜日の学年会議、火曜日の人権委員会で上がってきた情報をもとに、水曜日の生徒支援委員会で配慮の必要な生徒についての情報を共有し、支援の手立てについて検討する。
- ・その情報は、SC、SSWとも共有し、いっしょに手立てを考えてもらっている。
- ・月1回程度来校するSCには、生徒のみならず、保護者や教員も相談している。1回の来校につき、1～2人の生徒のカウンセリングを行っていただいている。自分の気持ちをなかなか言えない、友だちづくりが苦手な生徒がカウンセリングを受けている。
- ・ヤングケアラー支援体制強化事業により、SSWも月1回程度来校し、教員の知識が乏しい福祉的な視点からの指導・助言を行っていただいている。1回につき1～2人の面談を行っている。面談の対象は、生徒支援委員会の資料からSSWが気になる生徒をピックアップしている。SSWの活用は今年初めてなので、年明けに教員向けの研修をしていただき、SSWが生徒支援にどのように関わるのかを周知していきたい。
- ・SSWの活用は今年度からであるが、必要な専門人材だと感じている。市によって異なる福祉的支援を紹介していただくなどして、とても助かっている。
- ・学習面の支援として、国語、数学、英語で少人数展開授業や、ティームティーチングを行っている。
- ・進路面では、療育手帳を活用した就職を考える場合、2年次から職場体験を行っている。生徒、保護者の希望を聞き、ハローワークとも連携しながら進めている。

◆全体を通して委員からの意見

- ・療育手帳を活用した就職を進める際、保護者と認識の齟齬が生じる場合もあるのでは。
⇒保護者が賛成でも、生徒本人が希望しない場合もある。こちらから手帳の取得を勧めるのは難しい。
- ・学校が統合されるのはすごく寂しい。美原高校で取り組んでいることを大塚高校で引き継いでほしい。ハローワークと連携して、障がいのある生徒の就職先を開拓してもらっているのはありがたい。どんどん広がっていくといい。
- ・少人数で細かくていねいに授業をされているが、加配がかなりついているのか。
⇒支援が必要な生徒が増えていることから、教育庁に要望して、加配で教員数を増やしてもらっている。来年度入学生についても、1クラス40人とはせず、少人数の学級編成を行う。その分教員の負担は増えるので、引き続き加配を要望していく。
- ・美原高校の少人数でのていねいな授業をぜひ継続して行っていただきたい。

(6) 閉会挨拶（校長）

- ・第3回の学校運営協議会では、今回出てきた数値やデータを分析・検証した上で、さらにご意見をいただきたい。
- ・来年からの3年間は、非常に大きな変革が毎年ある。大変ではあるが、生徒のために対策を考えていくことにやりがいを感じる。今後ともどうぞよろしくお願いします。

※第3回は2月中旬を予定。